



自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

Eジャーナルしずおか

平成29年(2017年)
12月5日
火曜日
第194号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3134 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

遠いけど近い?— 学びを拡げる遠隔通信システムの活用

遠隔通信システムの導入～中山間地域校への支援～

中山間地域校は、近隣に大学や教育機関等がなく、他校と連携した教育活動や交流の場が少ないなど、距離的な制約が大きな課題でした。また、その多くが小規模校で教員数も少ない傾向にあります。

そこで、距離が離れていても、画面を介したリアルタイムな交流や遠隔授業を可能とする遠隔通信システムを導入しました。現在、川根高校、伊豆総合高校・土肥分校、浜松湖北高校・佐久間分校と総合教育センターでこのシステムを導入・活用しています。

遠隔通信システムとは?

主に1対1で行う「テレビ電話(Skype、FaceTime等)」とは異なり、多人数での利用を想定した高画質な映像・高品質な音声によるテレビ会議が可能なシステムです。やり取りを行う際のタイムラグが少なく、通信相手先のカメラ操作もできるなど、優れた機能を備えています。

現在の活用状況は?

遠隔通信システムの導入校では、大学の講義の受講、大学・他校との学生、生徒間交流に加え、本校・分校間の合同会議、総合教育センターが行う研修の受講などにも活用しており、交流・教育活動の拡大だけでなく、学校運営の効率化にもつなげています。

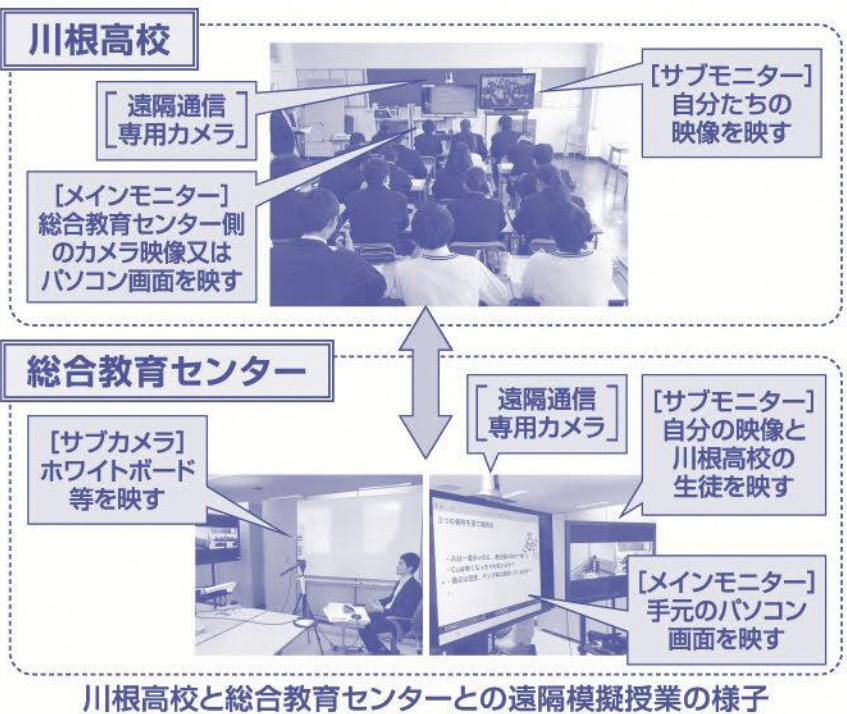
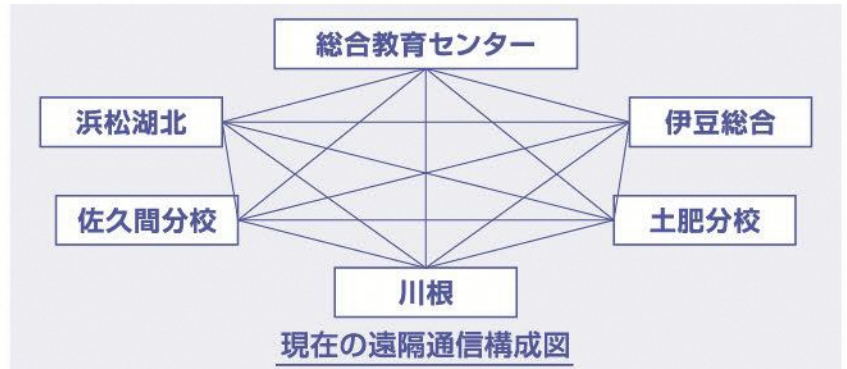
今後の展開は?

現在、導入校では遠隔通信システムを使った模擬授業が行われています。教育政策課情報化推進室では導入校の拡大、遠隔授業の本格実施に向けて、これからも取り組みを進めていきます。

さらに、こんな活用方法も・・・

- ▶ 部活動、生徒会活動での連携
- ▶ 海外の学校・企業との交流
- ▶ 教室・研究室をつないだ合同研究発表会

【教育政策課情報化推進室】



共生社会のさらなる推進へ— 特別支援学校を2校新設します

県教育委員会では、平成29年度から10年間にわたる児童生徒数の動向を視野に入れた特別支援学校の新たな施設整備の計画を、現在策定中です。

これまでは、平成23年度に策定した「静岡県立特別支援学校施設整備計画」に基づき、知的障害特別支援学校本校2校、分校2校の新設と肢体不自由特別支援学校2校の移転改築を行いました。

児童生徒数の増加が続く特別支援学校

少子化の中にあっても特別支援学校の児童生徒数はこの10年間増加が続いています。特に、知的障害特別支援学校に在籍する児童生徒が増加しています。

学部別では高等部の生徒数の伸びが大きくなっています。

施設狭あい化が大きな課題に

知的障害特別支援学校では施設が狭あい化しており、施設規模の200%を超える児童生徒が在籍する学校もあります。特別教室の普通教室への転用や仮設校舎の設置などを進めてきましたが、学習環境としては十分ではない状況です。

通学負担の解消を

知的障害特別支援学校に通学する20.5%の児童生徒の通学時間が60分超となっています。長時間の通学は、児童生徒にとっても、保護者にとっても大きな負担で、解消を図っていく必要があります。

特に沼津駿東・三島田方・浜松地区の学校での割合が高くなっています。

計画に先がけ2校の新設に着手

狭あい化と通学負担の大きい2地区(三島田方・浜松)では計画策定に先行して、知的障害特別支援学校を新設することとし、平成33年度の開校を目標に本年度から整備を始めています。

新しい2校

三島田方地区特別支援学校(仮称)

沼津特別支援学校の施設狭あい化と通学負担の軽減を目的に、平成30年度に移転する東部特別支援学校の移転跡地に設置します。三島市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、沼津市の一部を学区とします。

浜松地区特別支援学校(仮称)

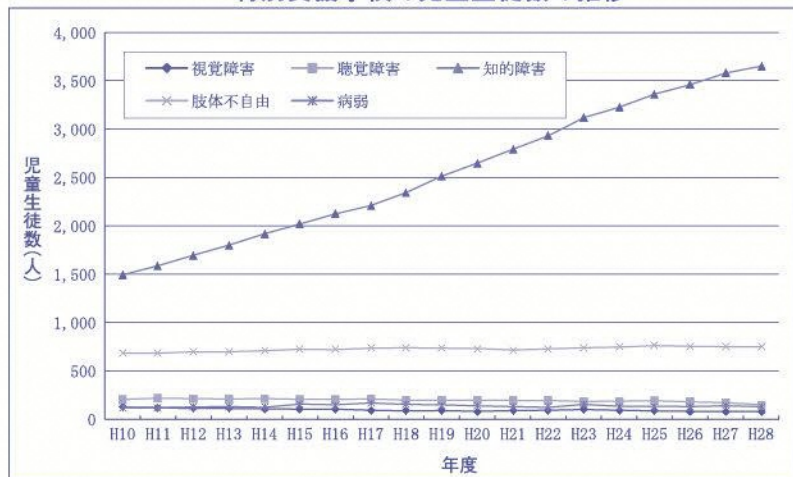
浜北特別支援学校、浜松特別支援学校、浜名特別支援学校の施設狭あい化と通学負担の軽減を目的に、旧気賀高等学校跡地に設置します。浜松市北区と西区及び中区の一部を学区とします。

共生社会の実現を目指して

新しい学校を作ることで、自宅からできるだけ近い学校で学び、交流及び共同学習を通して、地域とのつながりを深め、障害のある人もない人も共生できる社会を目指していきます。皆さまのお力添えをお願いします。

【特別支援教育課】

特別支援学校の児童生徒数の推移



実践NOTE 387

「対話の力」を信じて

磐田市立富士見小学校 主幹教諭 安藤 佐織



対話活動を行う筆者

信頼を築く対話

機軸①では、対話活動(コミュニケーション・トレーニング)により、自己肯定感の育成やコミュニケーションの基盤づくりを目指しています。

対話活動は、週1回、10分間設定し、マニュアル化した指導方法の下、3校で歩調を合わせて取り組んでいます。

磐田市では、全中学校区で小中一貫教育を進めています。各中学校区を「学府」と呼び、9年間を見通した特色ある実践を展開しています。

「よつば学府(城山中、磐田北小、富士見小)」は、児童生徒数が2300人余の大規模な学府で、平成28年度から施設分離型の実践を進めています。

推進役を務めるコーディネーターの会を月2〜3回実施し、取り組みの進捗状況を把握したり学府研修会等の方向性について協議したりしています。

よつば学府の教育目標を「グローバル化時代をたくましく生き抜く力の育成」とし、2つの機軸(学府共通の取り組み)を設けました。

- ① 信頼を築く対話
- ② 学びを深める対話

対話活動(コミュニケーション・トレーニング)

テーマ例	STEP 1 小1~中3(1学期)	STEP 2 小5 小6 中1~中3
	「好きな食べ物について」等 【過去・現在の内容】	「もし、どんな職業にも就けるとしたら何になりたいですか。」等 【仮定・未来の内容】
話し手・聞き手	低学年:20秒 中学年:30秒 高学年:40秒 テーマについて話す	50秒~60秒 テーマについて話す
【語り返し】 話し手・聞き手	聞いたことを、そのまま語り返す。 例「○○さんは、…が好きなんですね。それは〜。」	聞いたことを要約し、感想を伝える。
3	話し手と聞き手の役割を交代する。	
4	振り返りと、教師の価値付け。	



【対話活動】相手の目を見て聴く

学びを深める対話

機軸②は、新学習指導要領のねらいを意図しています。

教員が教科の見方・考え方を踏まえ、魅力的な単元を構想することが、児童生徒の主体性や確かな学力を付けることにつながります。

主体的になり、研修したことが「使える」内容



【対話活動】相手の目を見て聴く

子どもたちの育ちを

要領のねらいを意図しています。

教員が教科の見方・考え方を踏まえ、魅力的な単元を構想することが、児童生徒の主体性や確かな学力を付けることにつながります。

主体的になり、研修したことが「使える」内容

実践NOTE 388

子どもたちの声を聞き、共につくる遊びや生活を

袋井市立田原幼稚園 教諭 浅田 美香



子どもたちと「作戦会議」を行う筆者

今年度、年長児の担任となり、子どもと共に全力で遊び、笑い、試行錯誤し、その中で楽しさや喜び、面白さやもどかしさなど、気持ちを共有しながら25人の子どもの生活を送っています。

そんな子どもたちとの生活の中で特に大切にしているのが「作戦会議」(子どもとの話し合い)です。

「どうしたら一緒の気持ちになる?」近所の池へザリガニ釣りに出かけたときの一コマです。子どもたちと事前に考えて決めた6種類の餌の中から自分で餌を選び、また釣る場所も考えながらザリガニ釣りはスタートしました。



「ザリガニ釣り」真剣に竿の先を見つめる子どもたち



「きれいなパラバルーンを見てもらいたい」と張り切る子どもたち

声を聞き、自分たちで決める生活づくり

「できた!」の積み重ねが自信と意欲に

6月、大きなブルーシートから偶然始まったパラバルーンごっこ。「パラバルーン、運動会でやりたいね」という子どもたちの言葉をきっかけに、すぐに作戦会議「運動会やりたいんだね?」という私の投げ掛けに、「運動会やろう!」と共通の目的ができました。

なめらかな幼小接続に向けて

就学を控えた子どもたちの生活。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として文部科学省が取りまとめた10の力を、遊びを通して十分育めるよう、まずは没頭して遊べる十分な時間を確保し、その中で試行錯誤したり、思いや考えを実現したりできる生活づくりに努めていきたいと思っています。

芸術祭 2017

若きアーティストの作品に心が躍る! 「学生アート フェスティバル」

秋の訪れとともにさまざまな展覧会・コンクールを開催してきたふじのくに芸術祭。12月には県内で芸術を学ぶ学生が主役となる「学生アートフェスティバル」が県立美術館で開催されます。

会場 県立美術館 県民ギャラリー 入場無料



昨年の富士宮東高校の展示

問 文化政策課 054(221)2254

授業を観る目を鍛える ～子どもを丁寧にみつめる研修の実現を目指して～

「授業を観る目を鍛える」を目的に、静東教育事務所では、市町教育委員会指導主事との合同研修会を実施しています。今年度は、道徳の時間(小学2年生)の授業記録(教師と子どもの発言や表情を時系列でまとめた資料とビデオ)を基に、子どもの学びを価値付ける研修に取り組みました。

授業を観る視点は、把握した子どもの実態に基づき、その子どもが確かな学びを生み出す授業を実践しているかです。

資料は「ゆうちゃん(心ゆたかに)」。ゆうちゃんは、走ることが苦手。しかし、リレーでは、いつも一生懸命に走っています。ある日、ひろくんから、「ゆうちゃんがいるから、いつもほくらのチームが負ける!」と、きつい一言を突き付けられます。その様子を見ていたあきさんは、「ふうふう言いながらも懸命に走るゆうちゃんの姿」を思い出していた、というあらすじです。

授業記録を読み解く中で、指導主事たちは、「ゆうちゃんだけが遅いから(ひろくんに)文句を言われる」という発言をしたAくんに着目します。S指導主事は、「勝ちたいという気持ちの強さが表れているね」N指導主事は、「この発言のすぐ後に、Aくんは、持っていたハンカチをくわえたよね。もしかしたら、『自分はひろくと似ている…』と感じているんじゃないかな」T指導主事は、Aくんのこの仕草について、「言ってはいけなさと分かっているけど、我慢できない今の自分を見つめた瞬間だったのかもしれないね」と続けます。負けず嫌いの思いが強いが故に、ひろくと自分を重ね、つい口に出してしまうAくんの今を捉えた意見です。

そんなAくんは、その後の追突で「走るのが苦手なのはしょうがないことだよ」「ゆうちゃんは、ふうふう言いながら毎日頑張って走っているよ」という友だちの発言にじっと耳を傾けていきます。そして、「自分が言われて嫌なことは言わない!」と発言したのです。この様子をビデオで見たM指導主事は、「自分を見つめたAくんは、ゆうちゃんの気持ちを考えた友だちの発言に揺さぶられたのだろう。相手意識を膨らめた点で変容があり、Aくんの学びと考えられる」と価値付けました。

子どもを丁寧にみつめ、その表れを根拠に深く分析すれば、授業の本質が見えてきます。まさに、「授業を観る目を鍛える」ことができた研修会でした。



【静東教育事務所】

12・1月は 飲酒運転根絶取組強化期間です!

残念ながら、今年度も教職員の飲酒運転事犯が2件発生しています。飲酒運転根絶は、今年度のコンプライアンス研修の重要事項としてきましたが、さらに危機感を持って取り組む必要があります。



年末・年始は、酒席に参加する機会が多くなります。飲酒運転根絶に向けて、具体的な防止行動を展開しましょう!

《各校の取り組み例紹介》

★ 酒席の場で ★

- ・受付で飲酒できない職員を確認し、会の開始に先立ち全体に周知し、飲まない、飲ませないの徹底を図っている。
- ・乾杯のあいさつの前に管理職が「皆さん、車で来ていませんね。飲酒運転は絶対にいけません」と一言を入れて、会合を始めるようにしている。
- ・幹事が参加者全員の会場までと会場から自宅までの交通手段を確認し、一覧表にしている。
- ・全員の胸に色付きリボンを付け、個々の状況(飲酒できる、運転代行を依頼をする、飲酒できない)の「見える化」「共有化」を図っている。
- ・自作のシール「車で帰るので飲みません」「今日は代行で帰ります」を持参し、自家用車で参加した職員の胸に貼っている。



★ 学校で ★

- ・職員全員が「飲酒運転根絶宣言」をした。
- ・学校独自のペーパー「自分を見失うな!(飲酒運転根絶10カ条、アルコール検知器の活用、幹事の心構え)」を作成。懇親会のお知らせの裏面に印刷している。
- ・アルコール検知器の活用ルールを策定し、活用を促した。
- ・職員室に「安全運転啓発コーナー」を設け、飲酒運転根絶に関する資料を掲示している。

【教育総務課】

富士山静岡空港から「教育旅行に」出掛けよう vol.17 近い!安心!英語交流が可能! ～シンガポール・マレーシア教育旅行の魅力～

「生徒の国際的視野を育む」海外教育旅行を検討中の学校は必見です。今回は、特に交流プログラムに関する調査・体験を中心に、シンガポール・マレーシアでの教育旅行調査団の調査結果をご紹介します。

★交流プログラムの視察・体験

①交流候補校の視察

シンガポールではNANYANG POLYTECHNIC(高等技術専門学校)、マレーシアではSMK TUN SYED NASIR ISMAIL(中・高等学校)を訪問しました。いずれも学習意欲が高い生徒が多く、日本との学校交流の経験も豊富な学校です。



学校訪問先の授業風景/マレーシア

両校の一般的な交流プログラムでは、互いの伝統文化等の披露後、グループに分かれ、ゲームや校内ツアーなどを通じて交流を深めます。半日程度の交流ですが、記録映像に映る生徒の表情は生き生きと輝いており、得難い経験をしていることが感じられました。

②マレーシアのホームステイ・ホームビジット受入先訪問

今回訪問したブライ村は、油ヤシの生産を主産業とする豊かつ穏やかな農村で、政府から認定された民家が、年間約1万5千人の日本人生徒を受け入れています(うち6千人が宿泊、9千人は日帰り)。スプーンを使わず食事をするといった伝統的な生活習慣や異国情緒あふれる農村の景観、受入家庭の好意に触れるひとときは、心に残る異文化体験となるのではないのでしょうか。帰国後も、受入家庭との交流を続ける生徒もいるそうです。

③その他の交流プログラムの体験

シンガポールでは、現地大学生の案内により少人数のグループで街を散策する人気の「Brother&Sisterプログラム」も体験しました。現地の静岡県出身者との懇談会では、「海外勤務者は『特別な人』ではない。ぜひ若いうちに海外に飛び込んでほしい」など、異文化の中で壁を乗り越え、活躍する方々の実体験に基づくメッセージに、参加者は大いに刺激を受けました。

★シンガポール・マレーシア教育旅行の魅力

シンガポールは、ともすると東京にいるかのような錯覚に陥る、清潔感のある都会です。華人が人口の7割を占めるものの、初等教育から英語を第一言語としており、どこでも英語での交流を実践できます。また、海水や下水を活用した水資源確保、総合リゾート施設(IR)による観光客誘致策など、日本社会の参考になる取り組みも行われています。

一方、隣国マレーシアは、マレー系ムスリムが多く、シンガポール以上に文化の違いを体感できます。マレーシアはシンガポールに比べ物価が安いこともあり、両国での研修を組み合わせることで、より多様な研修が可能になるものと思います。

両国とも親日的で治安が良く、安心して研修ができることも大きな魅力です。

★航空機の乗継ぎ利用

富士山静岡空港にはシンガポール・マレーシアへの直行便がないため、今回は、中国東方航空を上海乗継にて利用しました。乗継利用は、往復に時間を要し、乗継時の過ごし方も課題となる一方、費用が抑えられるという利点もあります。時間帯によっては、乗継地点での研修も可能となります。

空港利用促進課では、各校のご希望に沿う空港利用方法や調査結果の詳細をご案内しますので、お気軽にご相談ください。

問 空港利用促進課 ☎054(221)3635

福利課info 大切な人を守るために…



今回はタバコのお話です。受動喫煙(※1)防止については、平成15年に健康増進法で「努力義務」とされてから10年以上が経過しました。現在、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、健康増進法を改正し、受動喫煙防止対策を従来の努力義務よりも実効性の高い制度とする方向で検討が進められています。日本の受動喫煙対策は、世界保健機関(WHO)から世界最低レベルと指摘されています。強化対策案では、多くの人を利用する施設など、一定の場所での喫煙の禁止を義務付けるとして、規制の対象範囲などが議論されています。

タバコと健康障害

日本で喫煙に関連する病気で亡くなる人は年間12~13万人と推定されています。タバコ=肺がんと思われがちですが、研究によって、喫煙はほとんどの部位のがんの原因になるといわれています。がんの他にも脳卒中や心筋梗塞、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、糖尿病、歯周病などさまざまな病気の原因となります。

喫煙によるがんのリスク(男性) (がんになる、またはがんで死亡する危険性)		(女性)
肺がん	4.8倍	
喉頭がん	5.5倍	
食道がん	3.4倍	

子宮頸がん 2.3倍

受動喫煙は、他者のタバコの煙を吸うだけで喫煙と同様のリスクがあります。「ベランダで吸っているから大丈夫」というものではありません。分煙では完全に煙をシャットアウトできません。人の出入りで髪や服についた煙の成分を吸い込んでしまうことがあるので、タバコの臭いがすると感じたら、受動喫煙の被害にあっているのです。

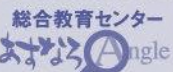
やる気になった時がやめ時です

「この1箱でやめる!」「明日から頑張る!」と禁煙への意思はあるものの、実行に移すことが難しいと感じる人もいます。タバコに含まれるニコチン(※2)への依存が原因かもしれません。テレビCMや広告でも目にするように、現在は多くの医療機関が禁煙外来を設けています。ニコチン依存症の治療には保険が適用されるので、経済的負担も少なく治療ができます。禁煙を決意したら、専門機関にご相談ください。

いくつになっても、禁煙が遅すぎることはありません。先送りせずに、やる気になった時がやめ時です。禁煙治療の成功率は7~8割です。

- ※1 受動喫煙 自分の意思に関係なく他人のタバコの煙を吸わされること。
- ※2 ニコチン タバコの有害物質の一つで麻薬と同じくらい依存性が高い。血管を収縮させ、血流を悪くする作用があり動脈硬化を促進させる。

【福利課】



主体的・対話的で深い学びへ導く ～身近なツール～

総合教育センターでは、小中学校の司書教諭等を対象に「これからの学校図書館づくり研修」を開催しました。「主体的・対話的で深い学び」を実現するツールとして、学校図書館が有効であることを実感してもらうことがねらいです。

学習のテーマ設定と情報探索



- 児童生徒は疑問や関心のあることを図書館資料から調べる
- 集めた情報からテーマを決める
- 情報を整理・分析・取捨選択
- テーマの見直し
情報をグループ内で共有
- プレゼンテーション

講師は武蔵野大学の小林路子氏。講義後の演習では「どの授業でも活用できる探究型スキル」について体験しました。まず、学習のテーマ設定は「その児童生徒にとって調べる価値のある内容であることが重要」と念を押されました。児童生徒自身の経験からなる、知識や情報があつてこそ、調べたい気持ちが湧き、それに応えるツールとして、学校図書館を活用します。

情報のマッピング(1つのキーワードから言葉を自由に連想し、紙の上に書き表していくこと)により仮テーマを決め、既存の図書から情報を集めカードにまとめ、プレゼン用や作文用として整理・分析し取捨選択します。さらに自分が最初に設定したテーマが手元にある情報の総称としてふさわしいか何度も見直すことで学びが深まります。小林氏は、「カード数により情報量を把握できるため、児童生徒にとっては、進め方の見通しを立てやすい」ともおっしゃっていました。

研修員の感想



「情報を取捨選択しながら自分の課題を設定し、解決していく中で主体的な問題解決能力が育ち、深い学びにつながる事が実感できた」
「司書と協力し調べ学習に耐え得る環境を整えたい」

知らないことは、調べられない。
知っているから、調べたい。

【生涯学習企画課】

埋蔵文化財センター巡回展「いつもそばに動物がいた」

県内4会場で、県が保有する土器や石器などの巡回展を行います。静岡県内で発掘されたさまざまな動物に関わる遺物を通して、各時代の人間と動物の関わりを展示解説します。

○会場・期間(入場無料、開館日時は各施設と同じ)

- 河津町立文化の家
(賀茂郡河津町笹原78-4)
平成29年12月2日(土)～平成30年1月9日(火)
- かなみ知恵の和館
(田方郡函南町上沢107-1)
平成30年1月11日(木)～平成30年2月1日(木)
- 生きいきプラザ
(伊豆市小立野66-1)
平成30年2月3日(土)～3月1日(木)
- 静岡市立登呂博物館
(静岡市駿河区登呂5-10-5)
平成30年3月8日(木)～4月12日(木)



馬形土製品
(掛川市原川遺跡出土)

問 埋蔵文化財センター ☎054(385)5500
HP <http://www.smaibun.jp/>

探険大好き、自然大好きな小さな冒険家集まれ!! ～観音山もりもりキャンプ～

早春の観音山で思いっきり活動しませんか。「森のワクワク探検」「夜のドキドキ探検」「沢のウキウキ探検」などの楽しい体験ができます。

- 日程 第1回 平成30年2月24日(土)～2月25日(日)【1泊2日】
第2回 平成30年3月3日(土)～3月4日(日)【1泊2日】
- 対象 小学1～3年生
- 参加費 5,000円
- 定員 各回120人程度(応募者多数の場合は抽選)
- 受付 12月11日(月)～1月19日(金)※締切日必着
(郵送にて受付、指定申込書はホームページからダウンロードできます)
- その他 第1回と第2回の両方に申し込むことはできません。

申・問 観音山少年自然の家
☎053(545)0111
HP <http://www.inh.co.jp/~kannyonyama/>

観音レンジャーも
小さな冒険家の皆さんを
待っています!



文化財ほっと通信

福島県教育庁派遣職員
(文化財保護課) **武田寛生**

被災地への職員派遣

東日本大震災の被災地への埋蔵文化財専門職員の派遣は、6年目を迎えました。

静岡県教育委員会では、平成28年度まで岩手県に毎年職員1人を派遣して、被災地の復興調査を支援してきました。

今回2度目の派遣となる私は、今年4月から福島県で復興に伴う埋蔵文化財調査に従事しています。

ふくしまの現状

福島県では、地震や津波で大きな被害を受けています。加えて、その後に発生した原子力災害の被害は甚大で、現在でも県内外に約5万人(静岡県には約500人)が避難を余儀なくされています。

津波被災地の復興事業は、今年度中に約9割が完了する見通しです。今後は、避難指示を受けた地域の生活拠点や生産基盤の整備等、原子力災害の被災地の復興・再生事業が進められる計画です。



試掘調査の状況

埋蔵文化財調査

今年度私たちが実施している埋蔵文化財調査は、原子力災害で被災した農地を再生するための整備事業に伴う事前調査が主体になっています。

合計100万平方メートル以上に及ぶ広大な範囲が対象となる試掘調査ですが、他県からの派遣職員と協力して、ふくしまの復興・再生と埋蔵文化財保護の両立のために力を尽くしたいと思います。

静岡県幼児教育センター発のスマートフォンアプリ!

ふじさんっこぞだてメール

子育てQ&A お役立ちリンク お知らせなどがご利用いただけます。

「ルールを守って遊べない…」
「食事のマナーが悪い…」
などの幼児期の悩みや迷いに答える子育てQ&Aには、教育・保育に関する情報が満載!

「わっ!びよん」のめり絵がダウンロードできるリンクも貼っています。

ダウンロード数
3,200突破!!



問 幼児教育センター ☎054(221)3287

注目



美しいアクリル印刷

ためしてみませんか。

一作屋は「1つからオリジナル」がウリの印刷通販サイトです。販促ツールやグッズの制作、お任せください!



<http://www.issakuya.jp>

一作屋



一作屋は、松本印刷株式会社が運営しています。